

平成30年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 発信性のある自主事業を実施します。	1 自主企画展の年1回以上の開催	□新・今日の作家展2018 実施回数	年1回	年1回	「新・今日の作家展」第3弾となる本年度は、制作の過程で出会った人やものを通して、様々な視点を作品の中に絡み込んでいく作家3名を取り上げ、「定点なき視点」を開催。作家へのインタビューや作品解説を掲載した小冊子を会場で配布し、市民をはじめ美術愛好家に展覧会や作家を周知しました。また会場記録写真に加え、会期中に実施した関連イベント(対談3本)をテキスト化し掲載した記録集を作成し展覧会アーカイブを充実させました。関連イベントの他、社会人と大学生のための公開講座「野毛まちなかキャンパス」、横浜トリエンナーレサポーターへのギャラリートーク、橋学苑高等学校デザイン美術コース学生へのレクチャーなどを実施し、幅広い年齢層に展覧会を紹介しました。	【成果】 ・「新・今日の作家展2018」では、現在の表現の動向に焦点を当てる意図からテーマを設定し、国内外で活動を展開しながらも公立美術施設での発表の機会が少なかった作家3名を紹介しました。制作の過程で出会った人やものを通して、様々な視点を作品の中に取り込んでいく作家の作品を展示したことにより、幅広い層の来場者をむかえ、好評を博しました。 ・「コレクション展2019」では「今日の作家展」を軸に昭和後期の現代美術を紹介しました。横浜美術館開館まで市内の美術施設として中心的役割を果たした当館の歴史を改めて明らかにするとともに、魅力的な作品の数々を美術史と照らし合わせながら展示しました。市民や美術愛好家などを中心とした来場者をむかえ、盛況のうちに終了しました。 ・両展覧会ともに作家インタビューを掲載するなどした充実した内容の小冊子を作成・無料配布し、鑑賞を深めるツールとして好評を博しました。 ・横浜市民ギャラリーあざみ野との企画連絡会議を実施し、その結果として、現代美術の展覧会をリレー展という形で開催し、また学芸員のための実践講座を共同で実施することができました。 ・今年度初めて、特別支援学校の生徒の就業支援となる清掃業務やビルメンテナンスの体験実習生の受け入れを始めました。これは共同事業体としての当館の特色を活かしたカリキュラムで、学校側からのニーズに応え、次年度以降も継続して実施していく計画です。 ・DDD @YOKOHAMA2018共催事業、パートナー事業としてダンスや音楽を通して、通常とは異なる市民ギャラリーをお楽しみいただけました。 ・フォト・ヨコハマへの協力として、民間画廊にフォトヨコハマへの参加を呼びかけたり、「画廊散歩」では1～3月号で写真展をクローズアップして掲載したり、広告掲載を行うなど、フォトヨコハマを盛り上げることに尽力しました。	【評価できる点】 ・「新・今日の作家展」及び「コレクション展」を通して、市民の皆さんに現代美術に触れる機会を提供したことに加え、各企画展において小冊子の作成・配布を行い、鑑賞時の理解を深める取組を評価します。 ・「横浜子ども美術展」では、前年度までと同様に、子ども達の創作活動の発表の場を提供することができました。また、同期間中に実施したミロコマチコ氏の特別展示及びワークショップの実施を通して、子ども達がアートに触れる楽しさも提供することができました。 ・これまで実施してきた各種アトリエ講座等を通して、市民の皆さんに創作活動の場の提供及びきっかけづくりに貢献しました。これに加え、市民ギャラリーあざみ野と連携し、学芸員向けの実践講座の開催は、施設の特性を生かした企画であった点を評価します。 ・地元町内会、伊勢山皇大神宮等との連携、紅葉ヶ丘5館連携事業に向けた調整等、地域との積極的な連携を推進した点を評価します。引き続き連携の継続により、地元の活性化に寄与することを期待します。
		□入場者数	4,500名	3,561名	C		
		□関連企画 事業数	2事業	4事業	A		
	2 収蔵作品を活用した展覧会の年1回以上の開催 コレクション展	□コレクション展2019 実施回数	年1回	年1回	B	横浜市民ギャラリーが開館した1964年から現代美術を紹介した「今日の作家展」の出品作家を中心に47点を展示しました。1988年の横浜美術館開館まで市内の美術施設として中心的役割をこなした当館の歴史を明らかにするとともに、美術史に照らし合わせながら3章構成で魅力的な作品を紹介しました。特集展示では昭和後期に活躍した吉仲太造の全所蔵作品7点を展示しました。事前に材料調査もおこない、関東では初めての紹介の機会の少ない作家の意義ある展示となりました。	【更なる取組を求める点】 ・「新・今日の作家展」及び「コレクション展」は、より多くの人に現代美術に触れ、魅力を知ってもらえる機会とするため、入場者数増に向けた広報の工夫等に期待します。 ・特別支援学級の生徒の実習を新たに受け入れ、就労支援を行った点は評価しますが、インターン制度の目的(将来学芸員を目指す学生の実務経験、指導の場)を考慮した、積極的な受入にも継続して取り組んでください。 ・「横浜子ども美術展」は、毎年多数の応募が寄せられる、子ども達の貴重な発表の場です。継続開催に向けた運営の工夫に引き続き期待します。 ・ニーズの高い「ハマキッズ・アートクラブ」は、より多くの参加の機会を提供するため、キャンセル対策の継続した検討を期待します。
		□入場者数	4,000名	4,476名	A		
		□関連企画 事業数	2事業	3事業	A		
	3 「今日の作家展」のWEB公開を目的としたアーカイブの実施	■「今日の作家展」の記録の整理	実施	実施	-	「今日の作家展」出品作家と当館所蔵作品を調査し、「コレクション展2019」で展示しました。3名(岩井優、川村麻純、阪田清子)のインタビュー収録を実施し、許諾を得られた2名分のインタビュー映像を「新・今日の作家展2018」の会場で上映、ホームページで公開、小冊子に3名分掲載しました。	
		□関連作家等へのインタビュー 実施数	1名	3名	A		
4 収蔵作品等の積極的な公開とアーカイブの実施	□収蔵作品の作家へのインタビュー 実施数	1名	2名	A	収蔵作家の中林忠良氏、若江漢宇氏のインタビューを実施し、「コレクション展2019」の会場で上映、ホームページで公開するとともに小冊子でテキストを掲載しました。		
5 横浜市民ギャラリーあざみ野との企画連携	■企画連絡会議の実施 ■希望に応じて受入れ	実施	実施	-	大学で文芸・思想を学び将来学芸員職を目指す学生1名にコレクション管理業務のうち、ホームページにおける作品検索ページ開設に向けた作業、および資料整理業務についてそれぞれ部分的に携わってもらいました。また上記とは別に、特別支援学校の生徒の就業支援となるよう、清掃業務やビルメンテナンスの体験実習生として、4回、延べ13日間に渡って、6名を受け入れました。		
6 インターン制度の発足	□「横浜芸術アクション事業」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	4事業	A	DDD @YOKOHAMA2018共催事業として「B1コンサート MONO 須川展也plays"シャコンヌ"」、DDD @YOKOHAMA2018/パートナー事業として「B1コンサート 美しきリユート〜パロック・ダンスとの邂逅」、「絵画とダンスのワークショップ 絵画に描かれたダンスと音楽〜印象派の舞踏会(ワルツ)」、「スナッチとおどろろ!親子でダンスパーティー★」を開催しました。またフォトヨコハマ2019/パートナーイベントとして、レクチャー「声と風景を記録すること」を開催しました。		
7 横浜市の文化事業との積極的な連携	□「フォトヨコハマ2019」との連携 事業数	1事業	1事業	B	育成研修4日間を経て、コレクション展会期中に、サポーター・メンバー6名が3/9、3/16の2日間にわたり、各自が選んだ出品作品の魅力を語りました。またコレクション展会場ではサポーターが執筆したテキストを掲載した「鑑賞サポーターによる作品紹介シート」を配布しました。		
8 鑑賞サポーターの育成及び活用	□コレクション展におけるサポーターの活用	年1回	年1回	B			

平成30年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
2 次代を担う子どもの創造性教育事業を実施します。	9 「横浜子ども美術展」の実施と新たな取組	□横浜子ども美術展2018 実施回数	年1回	年1回	・ミロコマチコ展「いきものかたちもよう」 ・ミロコマチコライブペインティング ・自由参加ワークショップ「どうぶつお面をつくろう！」 ・ハマキッズ・アートクラブ「へんてこ動物をつくろう！」 ・夏の子ども音楽会 「ヤマハエレクトーン オンステージ」 「『ハマのJACK』の“野毛山動物園の謝肉祭”」	【成果】 「横浜子ども美術展」では、今年も会場が子どもたちの伸び伸びとした作品でいっぱいになりました。展覧会全体のテーマを「動物」とし、ダイナミックな表現が魅力の絵本作家・ミロコマチコの特別展示ではエントランスホールにも大型作品を展示したほか、ライブペインティングや子ども音楽会などテーマに沿って関連事業を実施しました。また、自由参加ワークショップで作成したどうぶつお面をつけた子どもたちの姿が会場のあちこちに見られ、館全体にわたりにぎやかな雰囲気を創出できました。 「ハマキッズ・アートクラブ」では、年齢に応じた様々なプログラムを提供し、活動を通じて子どもたちに「自分で考える」「自分で決める」「自分でする」ことの楽しさや醍醐味を体験する機会を提供しました。 学校アウトリーチなども含め、全体を通じて子どもたちがさまざまな形で美術と出会う機会をつくりました。自分の描いた作品が展覧会で展示されるということ、アーティストやその表現・思考と出会うこと、意志をもって最後まで自分の力で取り組み作品をつくることなどを通して、子どもたち一人ひとりの成長や自信につなげることができました。また参加者が当館で出会ったアーティストの他館でのワークショップに参加するなど、子どもたちの興味関心を広げる場としての成果も見られました。	(評価は前ページに記載)
		□入場者数	14,000名	16,860名			
		□出品数	2,300点	3,061点			
		□関連企画 事業数					
		□顧客満足度	4.0以上	4.6			
		■テーマ部門「動物を描こう」の設置	設置	設置			
		■ワークショップスペースの設置	設置	設置			
		□サポーターの募集、育成のための育成研修 実施回数	年1回	年1回			
		□アーティストとの交流の場の提供 アーティストの作品展示	年1回	年1回			
	10 子どもの文化芸術の体験の場の提供と新たな取組 ハマキッズ・アートクラブ	□親子対象講座 実施回数	年3回	年4回			
		□年長児対象講座 実施回数	年2回	年2回			
		□小学校低学年対象講座 実施回数	年3回	年3回			
	11 横浜市の文化事業との積極的な連携	□小学校高学年対象講座 実施回数	年2回	年4回			
		□参加者数	200名	265名			
		□顧客満足度	4.0以上	4.8			
	12 横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野の子ども事業との連携	□「横浜芸術アクション事業」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	1事業			
□3館で事業連携し、講座内容や対象年齢を考慮した講座の開催のための企画会議 実施回数		年1回	年2回				
13 親子講座の開催	■3館での相互広報の体制作り 応募の落選者へ他館の講座を知らせる仕組みづくりを行う	実施	実施				
	□親子で造形を楽しむ講座を開催 実施回数	年3回	年4回				
14 教育機関等への支援の実施と新たな取組	□「横浜芸術アクション事業」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	1事業				
	アートティーチャーズ・プロジェクトの取組みを共有し、＜美術の教師のための鑑賞レクチャー＞や＜教師のためのワークショップ＞等の造形・鑑賞の指導 実施回数	年1回	年3回				
15 横浜市民芸術文化教育プラットフォーム『学校プログラム』への協力	■横浜市民芸術文化教育プラットフォームへの全面協力	実施	実施				
	□小学生、中学生、高校生を対象としたアーティストトークや鑑賞教室 事業数	1事業	3事業				
16 鑑賞教室等のアウトリーチ等の実施	□顧客満足度	4.0以上	4.8				
	□「横浜芸術アクション事業」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	1事業				

平成30年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画			評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
3 市民やアーティストの創造活動支援を実施します。	17 利用団体等が行う活動の支援の充実 (1)利用団体への丁寧な相談・助言	■事前打ち合わせの実施	実施	実施	実施	展覧会開催1か月前に事前打ち合わせを実施したほか、随時相談に応じ、展覧会終了までサポートしました。	【成果】 これまでの人気講座(クロッキー、デッサン、古典技法)を継続し、新たな試みとしてシルクスクリーン、日本画、民族工芸のワークショップ、油彩画、金継ぎといった新ジャンルの連続講座、座学では西洋絵画技法、映像、美術品取扱い実習を実施し、様々な切口から創造活動の場を提供しました。これまでのリピーターに加えて、初めて横浜市民ギャラリーの講座に参加する方も多く迎えることができました。 ・アートヨコハマ、画廊散歩ともに、内容を充実させつつ、広告枠を拡大することができ、その結果、広告料収入アップにつなげることができました。 ・気軽に当館の図録や美術書籍等を手に取って読むことができるよう美術図書読書コーナーを新設したことで、エントランスでの潜在をより快適な環境として提供できました。 ・横浜市こどもの美術館でのサポーターは、中学生から高齢の方まで、幅広い年齢層が集まり、展覧会来場の子もたちと気持ちの良いふれあいがなされました。また、コレクション展2019での鑑賞サポーターの皆さんも市民ギャラリーのコレクションの面白さを周知にご協力くださいました。どちらも、横浜市民ギャラリーの応援団として心強い存在です。  【課題】 ・広報誌の発行では、広告主の安定的な確保が課題です。30年度は意欲的に営業した結果、広告枠が順調に埋まりましたが、今後も広告主との密なコミュニケーションや魅力的な内容の広報物を発行することで、安定した広告収入獲得に取り組めます。
		■<ヨコハマ・アートナビ><アートヨコハマ><横浜画廊散歩>での事前広報	実施	実施	-	利用団体の展覧会情報を市民ギャラリーの情報誌やホームページ上に掲載するとともにLOD化されているヨコハマ・アートナビへ情報提供を実施しました。	
	(2)利用団体の展覧会についての積極的な広報	■<ヨコハマ・アートナビ>への情報提供	実施	実施	-		
		□<アートヨコハマ> 発行回数 □<横浜画廊散歩> 発行回数	年3回 月1回	年3回 月1回	B B		
	18 文化芸術の体験の場としての講座等の実施 (1)文化芸術の体験の場としての講座等の実施 大人のためのアトリエ講座	□つくって学ぶ 講座数	年7講座	年9講座	A	つくって学ぶ ①「クロッキーからデッサンへー 人体を描く」 ②「シルクスクリーンプリントで布バッグをつくる」 ③「日本画1日体験ワークショップ 鳥を描く」 ④「自作絵具で描く静物画 テンペラと油彩の混合技法」 ⑤「ヤマアラシの針でつくるブローチ」 ⑥「絵画とダンスのワークショップ 絵画に描かれたダンスと音楽～印象派の舞踏会(ワルツ)」 ⑦「金継ぎ入門 欠けた器を漆でなおす」 ⑧「デッサンー立体感と質感について実践から考える」 ⑨「人体を描くークロッキーとデッサン」	
		□きいて学ぶ 講座数	年3講座	年3講座	B		
		□参加者数	200名	272名	A	きいて学ぶ ①「写実画家から見た西洋絵画技法の魅力」 ②「声と風景を記録すること」 ③「学芸員のための実践講座1 美術品取扱い実習」	
		□顧客満足度	4.0以上	4.7	A		
	(2)横浜市の文化芸術事業との関連講座の開催	□「横浜芸術アクション事業」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	1事業	B		
	19 美術情報の提供及び広報の充実 (1)横浜美術館との情報連携の強化	■広報連携の実施	実施	実施	B		
		■横浜市の文化政策上重要な事業について、映像情報等を交えたコーナーの設置と、広報する会期に合わせての紹介	実施	実施	-	エントランス・送迎車内モニターで横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野などの展覧会告知映像を放映し、併せてチラシを配架して広報しました。	
		■空室情報の更新 実施状況 ■会期初日での展覧会情報の紹介	随時実施	随時実施	-		
(2)ホームページ、SNS等の活用による充実タイムリーな情報発信	■<アートヨコハマ>発行回数	年3回	年3回	B	利用団体の展示作業が終了し次第、会場の様子を撮影し、ホームページ上で紹介しました。また、SNSでも展覧会を紹介しました。		
(3)広報誌の定期的な発行	□<ヨコハマ・ギャラリーマップ> 発行回数	年1回	年1回	B	アートヨコハマはデザインをリニューアルし、当館事業の記事枠を広げ、情報発信の内容を充実させた他、広告枠も拡大させたため広告料収入もアップしました。		
	□<横浜画廊散歩> 発行回数	月1回	月1回	B			
20 市民参画等の協働の推進による美術振興の担い手育成 (1)文化芸術の情報の場としての強化及び集客キャンペーンの実施	■文化芸術の情報の場としての強化 情報コーナーの充実	実施	実施	-	チラシラックのチラシ配架、各地の公募展の案内を集めた「公募要項コーナー」を、効果的に運営したうえで、さらに気軽に当館の図録や美術書籍等を手に取って読むことができるよう美術図書読書コーナーを新設しました。		
	■キャッチコピーのパナー掲示による集客の継続	実施	実施	-	館外入り口にキャッチコピーを大型パナーにて掲載。ホームページに英語ページを作成、外掲示板に英語案内を掲出。		
	□「美術品の扱い方」、「展覧会のつくり方」、「ワークショップのハンドリング」等の専門的な知識を得られる講座の実施	年1回	年2回	A	「学芸員のための実践講座1 美術品取扱い実習」と「学芸員のための実践講座2 会場構成の基礎知識」の2講座を実施しました。		
(2)横浜市民ギャラリーあざみ野との共同講座の実施	□ボランティアの活用 回数	年2回	年2回	B	「横浜市民こどもの美術館2018」自由参加ワークショップ「どうぶつお面をつくらう！」のサポート 「コレクション展2019」鑑賞サポーター		
(3)自主企画展におけるボランティアの活用	□ボランティアの活用 回数	年2回	年2回	B			
4 創造活動を介した人々の関わり合いの場を提供します。	21 関連施設、民間ギャラリー、利用団体、ボランティア、アーティスト、学校教育間での相互交流の実施	■関連施設とのネットワーク インターネット情報、印刷物の相互配布	通年	通年	-		
		□民間ギャラリーとのネットワーク <横浜画廊散歩> 発行回数	月1回	月1回	B		
		□民間ギャラリーとのネットワーク <ヨコハマギャラリーマップ> 発行回数	年1回	年1回	B		
		■民間ギャラリーとのネットワーク 展覧会のホームページへの掲載	掲載	掲載	-		
		■利用団体との交流 貸館利用打ち合わせの実施	通年	通年	-		
		□ボランティアの活用 横浜市民こどもの美術館、コレクション展での募集	年2回	年2回	B	「横浜市民こどもの美術館2018」および「コレクション展2019」で募集し、それぞれ32名、6名が活躍しました。	
		□アーティストとのネットワーク 大人のためのアトリエ講座 実施事業数	全10講座	全12講座	A		
		□アーティストとのネットワーク 展覧会 実施回数	年3回	年3回	B		
		□学校教育とのネットワーク アートティーチャーズ・プロジェクト 実施回数	年1回	年3回	A		
		□学校教育とのネットワーク アウトリーチ 実施回数	年1回	年1回	B	小学校アウトリーチを3校6日間実施しました。	

平成30年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画			評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 創造活動の発表の場を提供します。	公平・公正かつホスピタリティの高い貸出業務 (1)多くの市民に利用してもらえるような公平・公正で、透明性の高い施設貸出	□全展示室利用団体の抽選会 実施回数	年1回	年1回	チェック B	【成果】 町内会・伊勢山皇大神宮・横浜成田山・横浜市従会館と情報交換を密に行いました。 ・伊勢山皇大神宮への当館チラシラックの設置、町内会掲示板へのチラシ掲示を通じ、自主事業の周知にご協力いただきました。 ・近隣の公共施設5館(県立音楽堂・県立図書館・県立青少年センター・横浜能楽堂・横浜市民ギャラリー)で構成された5館長会に参加し、情報交換や課題共有を行いました。また2019年秋の5館連携事業開催にむけて、担当が集まり定期的に会議を開始しました。 ・施設周知の一環として、県立青少年センター子どもフェスティバルに協力し、アウトリーワークショップ「どうぶつお面をつくろう!」を実施しました。 ・地域のはりがみラリーに協力し、エリアを通じて施設周知を図りました。 ・野毛地区振興事業協同組合、野毛地区街づくり会、および横浜商科大学の連携によって企画・運営される社会人と大学生の公開講座「野毛まちなかキャンパス」の第1回として「新・今日の作家展2018」の特別鑑賞とレクチャーを実施しました。  【課題】	【評価できる点】 ・展示室及びアトリエの施設提供により、文化芸術活動の発表の場を提供し、創作活動の支援を行うことができました。特に、展示室及びアトリエの利用率は、いずれも目標を上回っており、個人利用を可能とする運用の変更等、目標達成に向けたこれまでの取組を評価します。 ・適切な人員配置により、安定した施設運営が継続された点を評価します。 ・収蔵作品の管理について、IPM手法を活用しながら実施し、収蔵庫を含めた館内全体の環境維持に努めたことを評価します。 ・個人情報の適切な取り扱いや、人権尊重に係る研修の実施等、業務を適切に遂行したことを評価します。  【更なる取組を求める点】 ・収蔵作品の適切な管理やデータベースの更新等の継続的な実施が今後も必要です。貴重な収蔵作品の活用と公開のため、引き続き画像データの掲載を推進することを期待します。 ・桜木町駅からの送迎サービスは定着が図られています。今後も継続してサービス提供をお願いします。
		□1～5室利用団体の抽選会 実施回数	月1回	月1回	B		
		■抽選会後の空き室 先着順に受付	実施	実施	-		
		■当日の利用申込み等の緊急時の、安全を確認した上での対応	実施	該当なし	-		
		■利用団体からのアンケートを運営に活かすための職員内での情報共有	実施	実施	-		
	□利用団体からのアンケート 回収率	80%以上	98%	A			
	□施設スタッフ全員での定期ミーティング 開催回数	月1回	月1回	B			
	(2)利用団体への丁寧な相談・助言	■展覧会開催・終了までの利用打ち合わせ・展示作業及び展覧会会期中の運営サポートや広報面での助言協力	実施	実施	-		
		□アンケート満足度	4.0以上	4.6	A		
	(3)利用団体の展覧会についての積極的な広報	■<アートヨコハマ>への開催情報の掲載	実施	実施	-		
		■会場風景のホームページでの紹介、展覧会情報のFacebook・Twitterへの掲載	実施	実施	-		
		■利用者ごとの柔軟な対応	実施	実施	-		
	(4)エリアを通じた施設周知	■近隣・コミュニティとのリレーションシップによりエリアを通じた施設周知を図るための近隣・コミュニティとの連絡会の開催	開催	実施	-		
		■広報連携	実施	実施	-		
	(5)横浜市民ギャラリーあざみ野との連携による情報提供	■空き室情報の共有	実施	実施	-		

平成30年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
2 適切な施設情報発信等による認知度向上への取組強化	■施設情報の適切な発信による施設の認知度アップへの取組	■ホームページでの施設情報の周知	実施	実施	-	ホームページやSNSで展覧会情報、自主事業情報、空き室状況、送迎車情報を発信し、施設の認知度アップに取り組みました。施設利用者が自ら発信できるよう、来場者向けWi-Fiの利用をご案内しました。	【成果】 ・利用の手引きを更新し、より分かりやすい内容とすることができました。 ・利用日より半年を切った空き室は、10名未満の団体や個人も利用できる運用を開始したことで、新規のご利用者を増やすことができました。新しい感性の光る個展での利用が増えました。 ・アトリエについて告知する方策を多々とした結果、アトリエという貸し施設があることの周知が進み、アトリエの利用率が向上し、目標を上回りました。また、映画上映会など、これまでにならぬ形態のご利用実績もあり、様々な要望にお応えできる施設としての注目も集めることができました。 ・美術に限らずジャンルを超えたアーティストの創造活動支援としては、舞台公演の稽古場と本公演用に、展示室をご利用いただくことで、美術とは異なるジャンルでの利用について協力しました。 ・改善事例のホームページでの公開 実施状況につきましては、30年度分の予約から、展示室に空きがある場合は、個人や10人未満のグループも利用月の6か月前から先着順で利用申込みを可能とする貸出基準への変更などの改善事例をホームページで公開した結果、平成30年度の10人未満の利用は9件あり、新規の顧客層の拡大に繋がりました。また令和元年度からの運用改訂として、アトリエの利用率向上を目指し、利用における優先事項の設定や、利用日数の上限撤廃についてホームページで公開しました。来年度以降の効果が期待されます。 ・エントランスに机・椅子・チャイルド等を常に利用しやすく設置することに加え、気軽に当館の図録や美術書籍等を手にとって読むことができるよう美術図書読書コーナーを新設しました。その結果、エントランスをより快適にご利用いただけるようになりました。 ・町内会、伊勢山皇大神宮、横浜成田山とは定期的に情報交換をすることで、地域の一員として良い連携関係を築いています。町の美化行事、防災行事への参加だけでなく、チラシを掲示していただくなど、施設のPR等にご協力いただきました。年末年始には近隣住民の方々へ駐車場をご利用いただくことで地域貢献の一助としました。その他、施設周知と地域活性化の一環として、県立青少年センター子どもフェスティバルに協力し、アウトリーチワークショップ「どうぶつお面をつくろう！」を実施しました。また野毛地区振興事業協同組合、野毛地区街づくり会、および横浜商科大学の連携によって企画・運営される社会人と大学生の公開講座「野毛まちなかキャンパス」の第1回として「新・今日の作家展2018」の特別鑑賞とレクチャーを実施しました。 ・坂の上の立地から、送迎車を利用できることがありがたいというお声が多数です。周知が進んできたこともあり、昨年度よりも利用が増え、今年度は4万人の大会に乗りました。
		■全展覧会のFacebook、Twitterでの紹介	全展覧会	全展覧会	-	全展覧会を画像やハッシュタグ付きでFacebook、twitterで紹介しました。	
		■利用案内による施設情報周知	実施	実施	-	利用の手引きを更新し、利用団体への配布を開始しました。アトリエの案内に特化したチラシを挟み込み、利用団体へ積極的に配布しました。	
		■積極的な施設貸出の営業	実施	実施	-	次年度の申込がない団体には積極的にお声掛けをし、会期が迫った空き室についてはチラシを作成し、美術系大学に送付したほか、館内に配架しました。また半年を切った空き室は、10名未満の団体や個人も利用できるように変更したことで、10名未満の団体が9団体利用しました。	
	3 空き室の有効利用等の利用促進のための取組の拡充	■ホームページでの空き室情報の公開	随時	実施	-	ホームページで空き室情報を随時アップし、最新の情報を提供しました。	
		■美術関係者・団体とのネットワーク拡大による個別に営業をかけられる体制の構築	実施	実施	-	これまでの施設運営で蓄積した美術関係者・団体とのネットワークを利用し、1件の利用に繋がりました。	
		■抽選に外れた全利用者への代替案の提案	実施	実施	-	抽選に外れた利用者に対しても、別日程での利用を提案するなど、施設の利用を促進するよう努めました。	
		■空室の直前割引 利用日より6か月を切った展示室空室の50%減免での営業	実施	運用方法変更して実施	-	利用希望日より6か月を切った展示室空室は、個人利用を可能とする運用の適用の実施に切り替えることで、より効果的な運用方法へ転換しました。	
		■空室の個別の営業活動 横浜近郊の美術系大学への利用案内	実施	実施	-	横浜近郊の美術大学の学生向けに展示室の空き室利用に関するチラシを作成し、25校に送付しました。	
		■アトリエに特化した広報物の作成 過去利用団体への利用案内	実施	実施	-	アトリエの案内に特化したチラシの配布、アトリエ利用促進の告知動画を館内エントランスモニターでの放映、エントランスの休憩スペースでの広告などを継続したほか、アートヨコハマに貸館情報コーナーを新設しアトリエの利用案内を掲載するなど、宣伝に努めました。	
	4 利用率の向上と目標指標の達成 (平成32年度目標) 展示室:90% アトリエ:35%	■美術関連の学校、学部への周知・営業活動	実施	実施	-		
		■学生の芸術活動の育成 展覧会主旨等を精査の上、共催事業として100%減免	実施	実施なし	-		
■美術に限らずジャンルを超えたアーティストの創造活動支援		実施	実施	-	演劇公演本番利用について協力しました。		
□来館者数		25万人	256,215人	B			
5 要望・苦情への適切な対応とその共有の実施	□利用率 展示室	91%	95%	B			
	□利用率 アトリエ	43%	47%	A			
	■職員ミーティングでのお客様への対応の確認 実施状況	随時	実施	-			
	■お客様へのアンケートの実施と共有 実施状況	随時	実施	-			
	■苦情・要望の分析と共有 実施状況	随時	実施	-			
	■速やかな対応と再発防止のための情報共有 実施状況	随時	実施	-			
6 市民の芸術活動の深化のための取組の実施	■横浜市の情報共有 実施状況	随時	実施	-			
	■改善事例のホームページでの公開 実施状況	随時	実施	-			
	■市民が交流し、情報交換や知識収集のできる環境の整備 閲覧スペースの設置 実施状況	随時	実施	-	30年度分の予約から、展示室に空きがある場合は、個人や10人未満のグループも利用月の6か月前から先着順で利用申込みを可能とする貸出基準への変更などの改善事例をホームページで公開し、利用促進を図りました。また31年度からの運用改訂として、アトリエの利用率向上を目指し、利用における優先事項の設定や、利用日数の上限撤廃についてホームページで公開しました。		
7 宮崎町親和会(町内会)や伊勢山皇大神宮との協力体制構築	■町の美化や町内行事の参加だけでなく、共に施設のPR等を行う	随時	実施	-			
	■宮崎親和会での事業周知 実施状況	随時	実施	-			
8 送迎車の最適な運用の実施	■伊勢山皇大神宮の参拝客へのアピール 実施状況	随時	実施	-			
	■桜木町駅と横浜市民ギャラリー間で(車椅子利用者等の利用にも配慮した)無料の送迎車の走行	随時	実施	-			
	■展覧会に即した着実な運行	随時	実施	-			
	■館内、ホームページでの周知	随時	実施	-			
	■運行データの収集	随時	実施	-			
							【課題】 ・送迎車は定員が9名と、小さな車両のため、今後さらに利用を希望するお客様がおられても、現車両、現運行のままではいずれ、希望しても乗車できない方が増え、一転して苦情に繋がる危険性を持ち合わせています。横浜市と今後の送迎車のあり方について、根本的に検討する時期が近づいています。
							【更なる取組を求める点】 ・引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。また、施設・設備の不具合箇所が発生した場合には、適切な小破修繕の実施を行うとともに、関係各所との情報共有を行う等、継続して施設の長寿命化に努めてください。

平成30年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%以内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
3 市民ギャラリー所蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示を実施	9 収蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示の実施	■作品の定期的な点検	実施	実施	作品の点検を12/18、12/19、12/20、12/21に行いました。年間を通じIPMの手法に基づき収蔵庫や館内の環境をモニタリング、状況を把握しました。館の職員による原則週1度の定期的な清掃及び簡易殺菌を行う一方、2ヶ月に1度サンプリング等点検の上、専門業者による分析とフィードバックを継続、年に1度専門業者による殺菌を行うなど環境向上に努めました。作品修復7件、クリーニング3件、当館学芸員が行う自前クリーニング1件実施。また詳細写真データ未撮影作品およびポジフィルムが劣化している作品よりあわせて10点の撮影を実施しました。	【成果】 作品点検を継続しておこなうことにより、作品の状況を把握し、今後の修復計画などに役立てることができました。また「コレクション展」に出品する作品を優先して修復/クリーニングし良好な状態で展示することができました。また修復/クリーニングを終えた作品を撮影することで、良好な状態の画像データを蓄積することができました。IPMの手法で館内環境をモニタリング、清掃し館内環境を良好に保つことができました。「収蔵作品検索ページ」は作品および当館の認知を広めることに役立つとともに、外部の研究者などの益になるものであり、データ精査後に反映させることでより正確なデータを公開しました。日頃の調査・研究結果を活かし企画した「コレクション展2019」では「今日の作家展」を軸に昭和後期の現代美術を紹介し、横浜美術館開館まで市内の美術施設として中心的な役割を果たした当館の歴史を改めて明らかにするとともに、魅力的な作品の数々を美術史と照らし合わせながら展示しました。市民や美術愛好家などを中心とした来場者をむかえ、盛況のうちに終了しました。特集展示を通じ当館に7点収蔵のある吉仲太造の魅力を広く伝えることができました。また特集展示に先んじて材料調査を実施し新たな事実が判明したことで広く美術界の調査・研究に寄与しました。中林忠良、若江漢字におこなったインタビューでは作家自身やかつての美術シーンについてお話をいただき、貴重なアーカイブとなりました。ホームページでは「画廊散歩」表紙に掲載した作品12点について解説を公開し作品の魅力を伝えました。	(評価は前ページに記載)
		■作品データの更新	実施	実施	ホームページにおける「収蔵作品検索ページ」開設のため、作品データ全件の見直しを改めて行い、必要な箇所については更新した上で予定よりも早く30年度末に公開できました。従来不足していた作品の出品歴データについて調査と入力に着手しました。新カード作成に備えた事前作業を継続して実施しました。		
3 市民ギャラリー所蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示を実施	10 資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースの継続的な充実及び台帳の継続的な管理と収蔵作品の公開の実施	□コレクション展 実施回数	1回	1回	横浜市民ギャラリーが開館した1964年から現代美術を紹介した「今日の作家展」の出品作家を中心に47点を展示しました。	【課題】 作品修復は今後も順次実施する必要があります。IPMは今後も継続しておこなう必要があります。作品出品歴および収蔵経緯など、作品データの調査を進める必要があります。作品点検等で得た情報を漸次データベースに反映する必要があります。	
		□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数	12点	12点	ホームページでの収蔵作品紹介 12点 遠藤典太《麦田トンネル》、田澤茂《ベイブリッジ建設風景》、黒田茂樹《Sand glass》、やなせたかし《あんたが主役 港のマリンタワー》、市川勉《ボスポロス海峡を臨む》、浅見信夫《花(品濃一里塚)》、浜口タカシ《車内風景》、中林忠良《転位'90-地-II》、志村計介《山王橋》、安喰虎雄《かに》、吉仲太造《夜》、吉田克朗《Work "171"》		
4 運営組織の構築及び組織的な運営をします。	11 適切な運営組織体制と人材の配置	■資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースの継続的な更新	実施	実施	ホームページにおける「収蔵作品検索ページ」開設のため、作品データ全件の見直しを改めて行い、必要な箇所については更新した上で予定よりも早く30年度末に公開できました。	【成果】 ・事業・管理面とも適切な人材配置ができ、確実な施設運営ができました。各部署でのミーティングや全体会議で、課題や取組について議論することで情報共有するほか、外部研修の内容を共有し、全スタッフの施設運営に対するスキルアップができました。	
		□コレクション展 実施回数	1回	1回	横浜市民ギャラリーが開館した1964年から現代美術を紹介した「今日の作家展」の出品作家を中心に47点を展示しました。		
4 運営組織の構築及び組織的な運営をします。	12 組織内の情報共有及び主要人材の能力担保 組織的な施設運営のための職務の効率化や職員間の情報共有、業務改善のための会議を定期的実施すると共に、職員の能力担保のためOJT及び定期的な研修等を実施	□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数	12点	12点	ホームページでの収蔵作品紹介 12点	【課題】 ・人事異動や有期雇用職員の期限に伴う人材の確保が課題です。平素よりスタッフ間でのお客様対応等の情報共有や業務のローテーションで個々の経験値を高めることにより、スタッフのスキルの平準化を図り、常時高いレベルの利用者サービスを提供できる施設運営の保持に向け取り組みます。	
		■人材配置 館長:1名、事業責任者:1名、運営管理責任者:1名、学芸・事業担当者:3名、施設運営担当者:4名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:1名、警備チーフ:1名、常勤アルバイト:2名、短期アルバイト:3名	配置	配置	配置		館長:1名、事業責任者:1名、運営管理責任者:1名、学芸・事業担当者:3名、施設運営担当者:4名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:1名、施設管理担当:2名、警備チーフ:1名、警備担当:3名、清掃チーフ:1名、清掃担当:3名、常勤アルバイト:2名、短期アルバイト:2名
4 運営組織の構築及び組織的な運営をします。	12 組織内の情報共有及び主要人材の能力担保 組織的な施設運営のための職務の効率化や職員間の情報共有、業務改善のための会議を定期的実施すると共に、職員の能力担保のためOJT及び定期的な研修等を実施	□定例会の実施 実施回数	月1回	月1回	B		
		□研修 実施回数	年2回	年13回(延べ)	A		

平成30年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)については:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価			
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
5 本市の重要施策を踏まえ取り組みます。	13 個人情報保護についての取組 ・個人情報は規定及びマニュアル等に基づく適切な取り扱い ・具体的な業務についてルール化し、研修や定期的なミーティングによるスタッフの個人情報取扱いに対する意識の向上 ・メールやFAX、郵便物の送付時の個人情報漏えいの防止 ・個人情報の適切な管理の徹底	□過失による個人情報流出事故ゼロ	0件	0件	チェック B	個人情報は施錠しての保管やパスワード等、規定やマニュアル等に基づいた取り扱いを行いました。コンプライアンス委員を中心に研修や情報共有のミーティングを実施しました。	【成果】 研修やミーティングを通じてコンプライアンスの取組や、危機管理についての知識や意識を共有し、職員全員で取り組むことができました。	(評価は前ページに記載)	
	14 情報公開についての取組	■規定に基づく適切な対応 ■事業計画書及び事業報告書のホームページ(財団ホームページ)での公開	実施	実施	-		【課題】 今年度もコンプライアンス事故等ありませんでしたが、気を緩めることなくコンプライアンスや危機管理に継続的に取り組みます。指定管理者事務局本部では、毎月1回コンプライアンス委員会を開き、コンプライアンスに関する具体の事例について検討されました。今後も継続してその検討内容を全スタッフに共有することで、日常の業務の危機管理に備えます。		
	15 人権尊重についての取組	■全ての人に開かれた施設として人権に配慮した運営や接遇の実施 □横浜市主催の人権講習への職員の参加、職場内の研修についても人権尊重の意識を高める取り組みを実施。	実施	実施	-	横浜市から人権研修資料を借り受け、職場内研修として人権尊重の意識を高める取組を実施しました。			
	16 環境への配慮に関する取組	■環境への負荷の低減を意識した省エネルギー化、省資源化 ■「市役所ごみゼロ」「横浜市脱温暖化行動方針」「横浜3R(スリム)プラン」に基づく施設管理 □施設内での空気環境測定 実施回数	■環境への負荷の低減を意識した省エネルギー化、省資源化	実施	実施	-			全職員が環境への負荷の低減を意識し、業務に支障のない範囲で省エネルギー化、省資源化に努めました。またデマンド監視装置導入に向けて検討しました。
			■「市役所ごみゼロ」「横浜市脱温暖化行動方針」「横浜3R(スリム)プラン」に基づく施設管理 □施設内での空気環境測定 実施回数	実施	実施	-			
17 市内中小企業優先発注についての取組	■物品購入・委託等の、特別な専門性が必要等の理由がない場合を除く、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」に登録された企業への発注	実施	実施	-	業務に支障がない限り、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」での登録業者に委託・発注しました。複数の振込口座を持つ相手先には横浜市内に本支店を持つ口座を優先的に使用しました。				

平成30年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画			評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 施設、設備の維持保全及び管理をします。	1 PDCAサイクルに基づく、計画的で高品質な施設管理業務の実施	■施設・設備について高品質で効率的な定期点検及び日常点検の実施	実施	実施	実績	【成果】 共同事業者である強みを活かして、施設の安心、安全、快適環境を維持しました。展示室の壁面は定期的な専門施行業者によるメンテナンスの実施に加え、当館スタッフによるリタッチを実施し、経費節減をしつつ展示壁をより良い状態で保つよう努めました。アンケートでの快適評価は4.5と高い評価に繋がりました。  【課題】 ・収蔵作品の適切な管理のため、施設管理スタッフが施設内の状況を鑑みながら細目に空調機器をコントロールするなどの収蔵庫の温湿度管理と、専門家の助言や指導を受けたIPM(総合的有害生物管理)の継続的な実施が今後必要です。特に収蔵庫の温湿度管理については人的コントロールを行う必要があります。 ・改修前からの建物の不具合が課題です。不具合発生時は迅速な共有及び処置を行う体制を取っており、横浜市との情報共有も密にしながら、今後も施設の長寿命化を図ります。 ・当館スタッフによるリタッチを実施しても、全面的な定期的な壁面メンテナンスは必須と考えます。次期指定管理での必要経費化の提案を検討しています。	【評価できる点】 ・年間を通じて適切な維持管理を実施し、施設原因の事故等の発生件数がゼロ件であった点を評価します。また、利用者アンケートでの快適評価が目標を上回っており、施設の状態を常に良好に保ち、安全かつ快適な施設環境を提供することができました。  【更なる取組を期待する点】 ・引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。また、施設・設備の不具合箇所が発生した場合には、適切な小破修繕の実施を行うとともに、関係各所との情報共有を行う等、継続して施設の長寿命化に努めてください。
		■施設(建築物)、設備及び備品の破損、不具合等の異常時の利用者の安全の確保、施設の運営に支障をきたすことのない適切な措置、速やかな報告の実施 □設備の過失による運転停止事故ゼロ	実施	実施	-		
	■施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できる管理の実施	実施	実施	-			
	□アンケートでの快適評価 □施設ハード面での過失による事故ゼロ	4.0以上	4.5	B			
2 小破修繕へ取り組みます。	2 施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有	実施	実施	-	【成果】 管理スタッフによる日常点検や運営スタッフによる巡回を通して、修繕個所の発見や早期の対応を行い、施設の長寿命化及び館内サービスに影響の出ない施設運営に努めました。  【課題】 経年劣化等修繕の必要な箇所が今後一層増えてくると思われます。情報収集しつつ、対応を考えながら早期の発見や速やかな対応を行いたいと考えています。	
		■備品の適切かつ良好な状態での管理	実施	実施	-		
	■廃棄物の排出量を把握し、減量や分別・リサイクルへ努める	実施	実施	-			
	■空調管理の実施	実施	実施	B			
3 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理を行います。	3 保守点検、備品管理、環境維持の実施	■収蔵庫内及び収蔵庫周辺の定期的な清掃	実施	実施	B		
		■定期点検や日常点検、横浜市の施設管理におけるガイドラインに沿った点検・報告等の実施による修繕必要箇所の早期発見・対応	実施	実施	-		
	4 収蔵庫の適切な管理の実施	■施設管理に対する全職員の意識の向上	実施	実施	-		
		■全職員及び横浜市との情報の共有	実施	実施	-		
4 防災に関し取り組みます。	5 効果的な小破修繕への取組	■全修繕履歴の年度毎のデータ化	実施	実施	-	【成果】 事故防止体制・緊急時のための方針と対策として警備専門スタッフ及び機械警備による警備体制を敷くとともに、日頃から連絡・報告体制を整えました。事故や事件の発生はありませんでした。  【課題】 感染症など、新たな脅威に対する情報収集にも注力していく必要があります。	
		■保守管理の専門技術を活かした、突発修繕への速やかな対応	実施	実施	-		
	6 保守管理の専門技術を活かした、迅速かつ臨機応変な突発修繕への対応	■定期点検や日常点検、横浜市の施設管理におけるガイドラインに沿った点検・報告等の実施による修繕必要箇所の早期発見・対応	実施	実施	-		
		■緊急時の対応の明確化 ■緊急連絡網の作成と市への提出	実施	実施	-		
3 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理を行います。	8 (1)警備スタッフ及び機械警備による切れ目のない万全の警備体制の実施 (2)関連法規の遵守	■警備専門スタッフと機械警備による万全の警備体制の実施	実施	実施	-	【成果】 年2回の消防訓練では、実際に防災監視装置を動作させて、実際の火災に近い状況を作り出した訓練を行いました。シフト勤務の中でも、迅速な対応ができるように、毎日、自衛消防団の役割を自覚できる仕組みづくりを行いました。各職員の防災意識を高めることができました。  【課題】 少人数での勤務日であっても迅速な対応が間違いなくできるか。館内の職員スタッフでどう協力し合うか、またいかに利用者のみさんの協力を得ることができるかが、重要なポイントだと認識しています。また、展覧会開催中に大きな地震が起こった場合などを想定した訓練も今後は必要です。	
		■業務を遂行する上での、定められた関連法規等の遵守	実施	実施	-		
	(3)警備計画及び報告書の作成と適切な報告の実施	■警備計画書及び巡回警備計画書の作成とそれに基づく警備業務	実施	実施	-		
		■警備スタッフによる警備及び機械警備の業務日誌の作成と共有	実施	実施	-		
4 防災に関し取り組みます。	9 インフルエンザ等の感染症対策	■警備スタッフによる施設の駐車場だけではなく周辺道路への防犯対策の実施	実施	実施	-		
		■救急セットやAEDの完備 □AED取扱い研修 実施回数	実施	実施	-		
	10 緊急時の連絡体制・役割分担	■毎日のAEDのセルフメンテナンスチェックの結果確認	実施	実施	B		
		■職員による施設内巡回による衛生管理の徹底 ■インフルエンザ等の流行時の予防のための取組み 予防のための掲示の実施	実施	実施	-		
4 防災に関し取り組みます。	11 平常時の防災対策	■インフルエンザ等の流行時の予防のための取組み ■消毒剤の設置	設置	設置	-		
		■鳥インフルエンザへの留意と異常時の迅速な対応 ■汚物の処理にあたっての準備及び処理時の手袋・マスクの装着の徹底	実施	実施	-		
	12 災害発生時の取組	■緊急時の対応の明確化 ■緊急連絡網の作成と市への提出	実施	実施	-		
		■関連法規に基づいた届出等の実施 ■危機管理マニュアルの作成 ■全スタッフへの普通救命講習や訓練 □危機管理マニュアルに基づくスタッフの消防訓練 実施回数	実施	実施	-		
4 防災に関し取り組みます。	13 帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組	■自衛防災組織の設置と継続的な防災訓練の実施 ■町内会と防災関連の協議を行い、地域社会での責務を果たす	実施	実施	-		
		■関連法令、条例、業務の基準に基づく来館者の安全確保を最優先とした適切な情報管理の一元化及び適切な報告 ■二次災害の発生防止措置の実施と、横浜市等との協議の上での適切な対応	実施	実施	-		
	12 災害発生時の取組	■非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄 ■適切な情報収集による来館者や職員、施設の安全確保のための取組 ■災害鎮静後の危機管理マニュアルに基づく適切な対応と現状復旧体制の確保のための取組	実施	実施	-		
		■非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄 ■適切な情報収集による来館者や職員、施設の安全確保のための取組 ■災害鎮静後の危機管理マニュアルに基づく適切な対応と現状復旧体制の確保のための取組	実施	実施	-		



平成30年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況			評価	
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 収支の適切な構造及び収支バランス	1	(収支予算書及び報告書) ■適切な収支構造、収支バランスの確保	実施	実施	・収入については利用料金でも駐車場の貸出でも目標を達成しました。自主事業収入も増収。さらに助成金や広告料収入も好調だった結果、全体の収入合計は、180万円も増加となりました。 ・支出に関しては、光熱水費支出をはじめ、多項目支出において予算額より削減し、事業費支出の増大分を上回り、支出全体では46万円の削減を達成。最終的に227万円の黒字となりました。	【成果】 ・アトリエの定期的な利用が増えつつあること、個人の展示会も受け入れる運営変更を行ったことなど、利用料収入面でもこれらの成果があらわれてきた年であったと考えます。また助成金の獲得、広告料収入など、積極的な外部資金導入の成果も大きかったです。 【課題】 ・収入の増加は、自主事業の拡大という形で支出されていますが、支出全体で見ると、急な修繕に備えて支出を調整した結果、支出全体では46万円の削減となり、収支は最終的に227万円の黒字となりました。今後も精緻な執行管理に努めてまいります。	【評価できる点】 ・質の高い事業を行う予算を確保するために、自主事業の企画にあたっては、内容を充実させるため、各種助成金の獲得に努めた点を評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・今後も質の高い自主事業展開を持続するために、収支バランスにも配慮した企画立案を行ってください。 ・光熱水費が予算を上回っていますが、昨年の酷暑の影響と推察されます。引き続き利用者の安全性、快適性にも配慮しながら、より効率的な管理費予算の執行に努めてください。	
2 指定管理料のみに依存しない収入構造	2	□利用率の向上による利用料金収入の増加への取組	1150万円	1150万円	B	【成果】 助成金・協賛金、駐車場利用料金、広告料収入、大人のアトリエ講座は目標を大きく上回ることができました。 【課題】 ハマキッズアートクラブは、目標設定に無理があると考えます。 【成果】 事務の効率化により超過勤務を抑制しつつ、適切な施設及び設備管理を実施するとともに、経費削減に努めることができました。 【課題】 天候等の外的要因に大きく左右されやすい光熱水費の執行管理が課題となります。移転時から継続して建物管理に取組んできた専門スタッフの実績と経験を活かし、より密な室内環境のモニタリングに努め、効率的な光熱量の使用を行います。		
	3	□駐車場の利用料金収入の増加への取組	116万円	142万円	A			
	4	□助成金・協賛金	130万円	143万円	A			
	4	□広告料	44万円	57万円	A			
	5	□大人のアトリエ講座 講座料収入	122万	154万円	A			
	5	□ハマキッズアートクラブ 講座料収入	43万	30万円	C			
3 経費削減等効率的運営の努力	7	■横浜市に準じた経理規程に基づいた、支出を最小限に抑える取組	実施	実施	-			
		■事務用品の再利用化の推進	実施	実施	-			
		■広報物の発送の効率化による経費の削減	実施	実施	-			
		■計画的な経理処理による手数料の削減	実施	実施	-			
	8	■施設・設備の効率的な運用による経費削減	実施	実施	-			
		■施設・設備の現状把握と修繕計画による支出の平準化と修繕費の抑制	実施	実施	-			
		■早期の修繕実施による長期における経費削減	実施	実施	-			
	9	■職員の業務の効率化への意識を統一するための職員会議や面談	実施	実施	-			
		■業務の発注へのコスト意識及び職員の超過勤務削減による経費削減	実施	実施	-			
	10	■作家や講師との協働での事業企画による経費削減	実施	実施	-			
■企業からの現物協賛の受入れ等による経費削減		実施	実施	-				

評価項目		H30年度計画		実施状況			評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1						【成果】 【課題】	【評価できる点】 【更なる取組を期待する点】	

評価項目		H30年度計画		実施状況			評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1						指定管理期間の3年度目にあたる30年度も、管理運営や事業ともこれまでの経験や蓄積を生かしながら「文化芸術活動拠点としての機能の強化」「市民文化活動や創造活動に対する支援の強化」「次世代を担う人材の育成の強化」といった3つの基本方針に沿って取組みました。 利用率がすでに高い展示室では、個人利用の展示室利用の道を開いたことで、新たなご利用者層に恵まれました。またこれまでの課題であったアトリエの利用率を47%までに高めることができました。アトリエを定期的にご利用される団体が増えてきており、アトリエの認知度が高まってきたとらえています。 自主事業では、助成金の獲得など、積極的な外部資金の導入にもチャレンジし、市民ギャラリーでのこれまでの歴史を踏まえたうえで、意欲的な内容での展示会を開催し、市民の皆さまにご覧いただけました。顧客満足度や各事業参加者数等、業務全般において目標をほぼ達成できました。 今後の課題としては、施設利用者の層の高齢化という点です。市民のための施設としての姿勢を失わずに、運営方法の見直しなどを考えてまいります。	・各種の企画や施設・設備の提供を通して、市民の皆さまに身近な場所で文化芸術の活動の機会や発表の場を提供する役割を果たすことができました。 ・施設運営では、安定した運営を継続したことを評価します。今後も施設の特性を活かした魅力ある事業と、安定した施設運営を継続するとともに、これまでの指定管理者選定評価委員会や行政評価における指摘をふまえた、運営の向上に引き続き取り組んでください。	